

～めざそう 災害に強い土岐川・庄内川～

平成28年 4月15日

国土交通省中部地方整備局

庄内川河川事務所

「平成28年度 小里川ダム放流連絡会」を開催します ～大雨時における関係機関との対応を確認～

小里川ダムでは、洪水の一部をダム湖に貯め川の水位上昇を抑える、適切な防災操作を行うことで、浸水被害を未然に防いでいます。その際、特に下流域の関係機関との的確な連絡・調整が必要となります。

小里川ダム放流連絡会は、大雨時における放流等に関する情報の連絡体制の確認を目的に、下流域の市町村・警察・消防等の防災担当者にご参加いただき、降雨が頻繁になる出水期前に毎年開催しているものです。

当日は、ダムの仕組みや役割についての知識をより一層深めてもらうため、小里川ダム堤体内部の見学会や設備の説明を行います。

1. 日時 平成28年 4月22日（金） 14時00分～16時30分
2. 場所 小里川ダム管理支所1Fロビー（岐阜県恵那市山岡町田代1565-21）
3. 内容 議事次第（案）（別紙1）参照
4. 参加機関 小里川ダム放流連絡会構成機関（別紙2）参照
5. 添付資料 議事次第（別紙1）、小里川ダム放流連絡会構成機関（別紙2）、取材登録書（別紙3）、昨年度開催資料、小里川ダム諸元資料
6. 配布先 中部地方整備局記者クラブ、多治見市政記者クラブ、恵那記者会
※取材について 現地取材を希望される報道機関におかれましては、4月21日（木）16時迄に 別紙「取材登録書」をFAXにて提出をお願いします。

【問い合わせ先】

庄内川河川事務所	小里川ダム管理支所長	岡村 修
庄内川河川事務所	副所長	瀬古 眞一
電話	小里川ダム	(0573) 59-0056
	庄内川河川事務所	(052) 914-6711
FAX	小里川ダム	(0573) 59-0058
	庄内川河川事務所	(052) 915-5093

平成28年4月22日（金）
於：小里川ダム管理支所

平成28年度 小里川ダム放流連絡会 議 事 次 第（案）

1. 開会あいさつ
2. 議 事 次 第
 - (1) 放流連絡会規約及び委員名簿の確認
 - (2) 小里川ダムの概要・防災操作の特徴・昨年度の放流実績
 - (3) 放流通知・情報の流れ
 - (4) 防災操作実施中の情報提供
 - (5) インターネットによる小里川ダムからの情報提供
 - (6) 平成28年度ダム管理演習の実施について（協力依頼）
3. そ の 他
 - ◇ 防災操作の仕組みについて（ペットボトルによる簡易実験）
 - ◇ 質疑
 - ◇ ダム堤体内及び操作室視察
4. 閉 会

小里川ダム放流連絡会構成機関

構 成 機 関
岐 阜 県 恵 那 土 木 事 務 所
岐 阜 県 多 治 見 土 木 事 務 所
恵 那 市 役 所
瑞 浪 市 役 所
土 岐 市 役 所
多 治 見 市 役 所
瑞浪市消防本部
多 治 見 警 察 署 瑞 浪 交 番
中部電力(株)加茂電力センター 川 辺 土 木 管 理 所
国土交通省 庄内川河川事務所

平成 年 月 日

「平成28年度 小里川ダム放流連絡会」取材登録書

「平成28年度 小里川ダム放流連絡会」について、取材をご希望の報道機関におかれましては、事前にご登録をお願いいたします。

FAX 送信期限：4月21日（木）16時00分

1. 報道機関名 _____

2. 取材者等

(1) ご氏名 _____

(2) 連絡先 TEL _____

(3) 取材人数 _____ 人

(4) 取材車両
の種類等 _____

3. 送信先 (FAX) 0573 - 59 - 0058

4. 問い合わせ先

庄内川河川事務所
小里川ダム管理支所長 岡村 修
電話 (0573) 59-0056

平成27年4月24日（金）、「平成27年度 小里川ダム放流連絡会」を開催しました。

小里川ダムからの洪水時における放流等に関する情報を、ダム下流に位置する自治体をはじめ関係機関に適確に連絡することを目的に、毎年出水期前に開催しているものです。今年度も関係自治体・機関の防災担当者に参加いただき、地域の安全を守るための連携等について確認しました。

また、ペットボトルを利用した洪水調節の簡易実験をおこなったり、実際にゲート操作室やダム内部で参加者の目の前で施設や設備について説明したりするなどして、ダムに関する防災知識をより一層深めていただきました。



挨拶する高橋事務所長



操作室で水位などダムの監視状況を説明

●参加機関

- ・岐阜県多治見土木事務所
- ・岐阜県恵那土木事務所
- ・恵那市(防災情報課)
- ・瑞浪市(生活安全課、土木課)
- ・土岐市(監理用地課)・多治見市(道路河川課)
- ・瑞浪市消防本部・多治見警察署(瑞浪交番)
- ・中部電力(株)・庄内川河川事務所



ペットボトルを使った洪水調節実験



ダム内部のゲート設備を見学

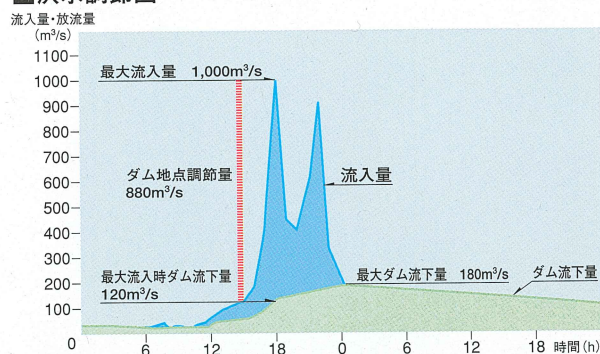


とても深いダムの監査廊

小里川ダムには 3つの目的があります。

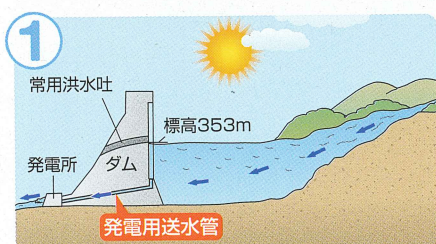
小里川ダムは、庄内川水系小里川の岐阜県恵那市山岡町と瑞浪市陶町に、多目的ダムとして建設されました。防災操作と、河川環境の保全などのための流量の確保、発電を行うことを目的としています。ダムは、重力式コンクリートダムで堤高114m、総貯水容量1,510万 m^3 、有効貯水容量1,290万 m^3 、自然越流方式（洪水期間はゲートを開放）で管理しています。

■洪水調節図

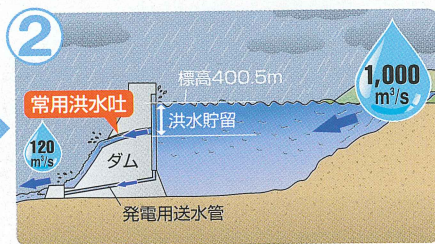


1 水害を防ぎます。

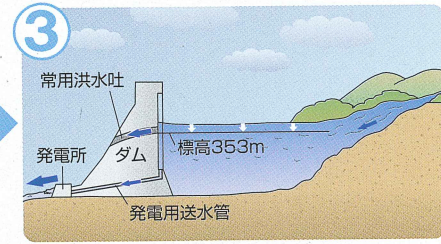
ダムの上流で大雨が降ると川の水量が増えます。そのため、下流の川があふれないように小里川ダムで洪水貯留を行います。計画高水流量1,000 m^3/s を120 m^3/s に川の増水を緩和し、東濃地域、尾張地域の水害を軽減します。



いつもは標高353mまで水を貯めています。ダム湖の水は発電用の送水管を通して下流に流れます。



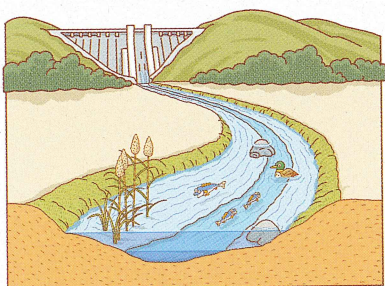
大雨になると、ダム湖に水が貯まりはじめ常用洪水吐から流れ出します。さらに大雨が続くとダム湖にどんどん水が貯まり、洪水貯留をします。



雨がやんだら、次の大雨に備えダム湖の水位を①の通常時の水位に徐々に戻します。

2 川の環境を守る。

川の水量が極端に少なくなると川の生き物などがすみにくくなってしまいます。また、川の水は昔から流域の人々に使われていますが、川の水量が少ないと安定して取水できなくなります。そこで、川の水を補うためダムに貯めた水を下流に流します。



3 電気をつくる。

中部電力(株)によってダム直下に設けられた発電所により、小里川ダムの最大使用水量3.0 m^3/s を利用して、最大出力1,800kWの水力発電を行います。これは、一般家庭で約600世帯分の電力となります。

